

◆自動車総連の福祉活動

自動車総連は結成以来、「福祉社会の基盤は人間尊重と互助の精神に根ざした温かい思いやりの心」との考えに基づき、労働組合の立場から福祉社会の実現に向けた様々な活動を積極的かつ幅広く進めてきました。

その一環として、全国の社会福祉施設や団体に車両や物品の寄贈を行うとともに、「日本青年奉仕協会」「PHD協会」「ナイスハート基金」の3団体へ特別寄贈を行っています。また、交通事故で被害にあわれたご家族を支援している「交通遺児等を支援する会」に対し、チャリティーバザーへの協力を行っています。

◆「物品寄贈」

物品寄贈の贈呈式（静岡地協）



1976年、自動車総連は国内の社会福祉施設・団体への物品寄贈を始めました。この年、全国85カ所の社会福祉施設を選び、身体障害者施設に車椅子や電動タイプライター、養護老人施設にリモー

物品寄贈の贈呈式（沖縄地協）



トコントロールベッドやストレッチャー、児童施設にトランポリン等を寄贈しました。その後も年に一度、自動車総連地方協議会（全国47地協）からの推薦を受け、小

規模作業所を中心とした困窮している施設に対して寄贈を行っています。その結果、2005年までに全国で3005施設に物品を寄贈することができました。

◆自動車産業の特色を生かした「車両寄贈」

1985年からは自動車産業という特色を生かし「車両寄贈」を行っています。寄贈施設は自動車総連加盟の労連から推薦を受けて決定し、施設の要望を伺いながら、作業用車両や福祉車両などを寄贈しています。その結果、現在までに全国で525台を寄贈することができました。しかし、未だ多くの施設から車両寄贈の要望が寄せられており、今後とも自動車産業らしい取り組みとして継続していきたいと考えています。

■すくらむトライ

労働組合の社会貢献活動事例 ⑭

自動車総連 組織・政治室 組織・政治グループ長 / 石塚浩三

自動車総連の“ものからまじる”

広がりのある「福祉活動の推進

福祉車両の寄贈風景



◆「交通遺児等を支援する会 チャリティバザーへの物品提供」

交通遺児等を支援する会は、経済的負担を強いられている母と子に対する「緊急一時貸付」「越年助成金」等を行っている団体です。同会は、活動に必要な資金を得るため、毎年11月にチャリティバザー

交通遺児等を支援する会のチャリティバザー



ザーを開催しており、今年で26回目を迎えます。自動車総連では組織内に呼びかけ、このバザーへの物品提供を行っており、昨年、私たちは7896点の物品を提供することができました。

◆ボランティアの活動を応援「日本青年奉仕協会への支援」

日本青年奉仕協会が行っている

「1年間ボランティア計画」は、活動を通じた社会貢献と学び“を目的とし、一般公募で募った青年男女約50名、60名をフルタイムのボランティア(※)として、社会福祉、医療、教育、文化、地域振興などの活動現場に派遣しています。自動車総連は1991年から、小規模な障害者自立支援施設での活動を支援しています。

これまでの支援によって派遣されたボランティアは、のべ107名、48施設・団体にのぼっており、修了者は経験を活かし、福祉や教育、地域のボランティアリーダーとして今も活躍されています。

※フルタイムのボランティア：退職、卒業、休職、休学しボランティア活動に専念する方

◆国際的な広がり

「PHD協会(PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT)への支援」

PHD協会は、世界に平和と健康を担う人材を育てる社会を目指

し、物・お金を直接渡すのではなく、自立した地域づくりにつながる人づくりのための研修事業を中心に活動しています。自動車総連もこの理念に共感し、1991年から支援を始め、この支援によってこれまでにアジア・太平洋を中心に11カ国173人の研修生、75人のゲストを日本に迎え入れました。迎え入れた方々は、日本で1年間の実施研修(有機農業・保健衛生・学校教育・縫製技術等)を受け、帰国後は日本で習得した技術を自分の村で役立てるなど、母国で活躍されています。

◆組合員が直接参加できる福祉活動

「ナイスハートふれあいのスポーツ広場の開催」

この「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」活動は、組合員がハンディキャップを持つ方とスポーツを通じて互いにならぶことで、思いやりの心、助け合いの心

風船バレー



大玉ころがし



玉入れ



フライングディスクレクチャー



を育むことを目的として行っているものです。1983年の開催当初は、日産労連（全日産・一般業種労働組合連合会）と（財）国際障害者年記念ナイスハート基金が共同で開催していましたが、1992年11月の自動車総連結成20周年を記念し、物品・車両寄贈だけでなく、組合員も参加することで障害者と健常者との交流の場を広げる「参加型福祉活動」として、ナイスハート基金の協力を得て、自動車総連地方協議会が中心となり全国各地で毎年取り組んできま

した。その後、徐々に開催県を拡大し、今年では28都市で多くの参加者を得ての開催を予定しています。障害のある、なしを問わず、スポーツを通じて共に汗を流すという共通の体験をすることにより、ハンディキャップを持った方々と組合員とがふれあいを深める中から、自立の心と思いやりの心“を育むことができ、私たちにとってほしいへん貴重かつ素晴らしい体験となっています。競技の内容も、恒例となってい

る「綱引き」「玉入れ」「大玉ころがし」「キュービックス組立て」「風船バレー」などに加え、最近では「ロープ送り」「交流ダンス」も加わるなど、参加者が楽しめるよう各地協が工夫をこらしています。競技のあとは、司会&タレントのアトラクションに続き、障害のある方でも参加することのできるエアロビクス「アダプトテッド・エアロビクス」や「フライングディスク」を取り入れ、参加者全員が汗を流し、すばらしいふれあいの場が作られています。

◆今後の取り組み

私たち自動車総連は、組合員が直接参加し、ボランティア意識の高揚や社会貢献活動の大切さを実感し、職場や地域で自発的に活動していくための一助となる、広がりのある福祉活動が大切であると考えています。従って、「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」のような、参加型の福祉活動を重視し、今後、開催の機会を増やしていく計画です。